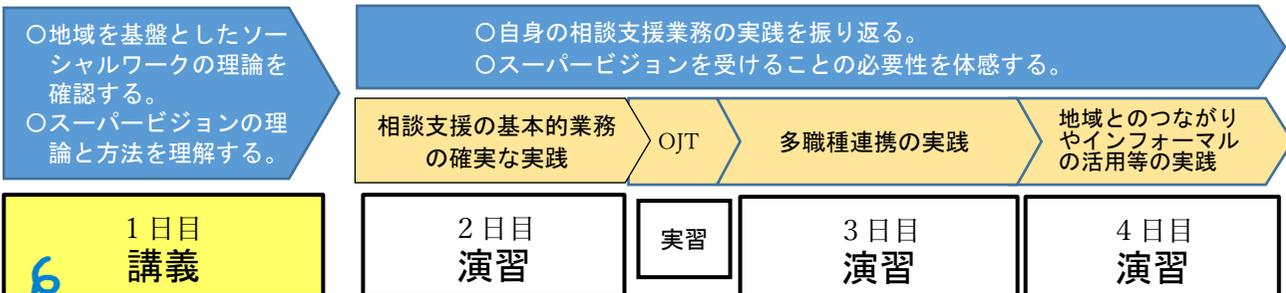


令和2年度東京都相談支援従事者現任研修
プログラム案

【現任研修の全体像】



【講義部分プログラム案】

時間	科目名	内容・ポイント	講師イメージ
9:45～10:15 (30分)	1. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法等の現状① (研修オリエンテーション)	「東京都で活動する相談支援専門員の目指す姿」を用いて、相談支援専門員の目指す姿の再確認と、その中での本研修の位置づけを説明する。	検討会委員
10:15～11:15 (60分)	2. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法等の現状②	直近の国研修の資料をベースとした障害者福祉施策の最新の情報と、東京都の障害福祉施策の最新の動向等を伝える。	都職員
休憩			
11:25～12:25 (60分)	3. 本人を中心とした支援におけるケアマネジメント及びコミュニティソーシャルワークの理論と方法① (個別相談支援(意思決定支援))	個別相談支援の質の向上を図るため、受講者の実践の振り返りを行う。具体的には個別相談支援における関係性の理解、自他尊重等についての自己覚知を行い、信頼関係の構築、意思決定支援ガイドラインに基づく対応、モニタリング機能について再確認する。基調の講義を行った後、相談支援の利用者(障害当事者)の経験談を聴く。	検討会委員 他
昼休憩			
13:25～14:25 (60分)	4. 本人を中心とした支援におけるケアマネジメント及びコミュニティソーシャルワークの理論と方法② (多職種連携とチームアプローチ)	相談支援の基本姿勢、チームアプローチ、多職種連携の基本的事項と必要性について、具体的な実践場面として、サービス担当者会議を例にしながら再確認し、受講者自身の実践について振り返れるようなミニワークを行う。	検討会委員 他
休憩			
14:35～15:35 (60分)	5. 本人を中心とした支援におけるケアマネジメント及びコミュニティソーシャルワークの理論と方法③ (コミュニティワーク)	相談支援の基本姿勢を再確認するとともに、本人の生活の質を高めるためには、コミュニティソーシャルワークや地域を基盤とするソーシャルワークの視点が必要であること等の復習をし、本人中心とした個別支援と地域づくりの連続性を理解する。また、受講者自身の実践を振り返りながら、「地域づくり」において自身が果たす役割に気が付きを持てるよう、ミニワークを行う。	検討会委員 他
休憩			
15:45～17:15 (90分)	6. 実践研究及びスーパービジョンによる人材育成の理論と方法	SVの基本を確認しつつ、実践で活用できるようにするため具体的な方法を示す。特にストレングスマデルケースマネジメントに基づくグループスーパービジョンについては、基礎理論を確認したうえでデモンストレーションを行う。	検討会委員 他

地域を基盤としたソーシャルワークの理論を確認する。

スーパービジョンの理論と方法を理解する。

東京都相談支援従事者現任研修2日目 個別相談支援演習

企画ポイント: 個別相談支援の質の向上を図るため、受講者の実践の振り返りを行う。具体的には、各受講者が実際に関わる事例を通して実践報告を行い、グループワークを通して自身の実践を振り返り、意見交換を行う中で、新たな気づきを得、自身の課題に目を向ける。そこで整理した課題に対して、インターバル期間に基幹相談支援センター等で助言を受け、個別相談支援の質の向上に向けた取り組みを具体化する。

研修2日目の獲得目標		個別の相談支援の実践事例を振り返り、検討することで個別相談支援の能力の向上を図る。						
時間	大項目	獲得目標	中項目	手順、時間配分	内容	形式	使用ツール	
9:30~9:50	20	① オリエンテーション～演習スタートに向けて～	演習の獲得目標や流れを理解する。 個別相談支援を振り返るうえでのポイントを理解する。	1 研修2日目から4日目(演習)全体の獲得目標と進め方の確認 2 研修2日目の獲得目標と流れの確認	演習の流れの説明 1) 個別相談支援について講義(一日目講義を踏まえ) ① インテーク、アセスメント、モニタリングの方法等について ② 相談支援のプロセスの中で意思決定支援がどのように展開されているか 2) 演習時に行うチェックシートの使い方 3) インターバル間の取り組みについての説明	全体会	チェックシート 実習課題報告書	
9:50~10:20	30	② 個別相談支援の実践の振り返り	実践検証の流れを理解する。	1 実践検証実演	1) 実践検証の説明 (流れ、板書、質問のポイントなど) 2) 実践検証の実演 3) インターバル間の課題抽出・取り組みについて例示 1) 5分、2) 20分 (2分事例読み込み、5分事例報告、8分質疑応答、5分意見交換)、3) 5分	講師、事例提供者、参加者役を各FTが担う。 ※事例提出者が自身の何が課題であるか気づけることが目的	全体会 実演用の架空事例(佐藤和也さん)シナリオ	
10:20~10:30	10	休憩						
10:30~12:00	90		自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべきことに気づく。 個別の相談支援の実践事例を振り返り、検討することで個別相談支援の能力の向上を図る。	2 自己紹介・役割決め 3 個別支援実践を検証する	1) 自己紹介 2) アイスブレイク 3) 役割決め 10分 実践検証① 10:40~11:15 (休憩 11:15~11:25) 実践検証② 11:25~12:00 【進め方 1人35分】 1) 事前課題読み込み 2分 2) 事例概要及び実践報告 5分 3) 事例を深める質疑応答 8分 4) 実践を深める質疑応答 10分 5) 意見交換 10分	自己紹介、アイスブレイクに加え、改めて演習の流れを確認 実践報告者、司会、板書役の順番を決める(全員が必ず一度担う。板書が難しい場合は他受講者や教室FTが担う)。 事前課題を参加者で読み込む。報告者から概要・見立て・支援課題・支援方針をポイントを絞って報告する。事例について、また相談支援専門員の実践について参加者から報告者に質疑応答を行い、事例を深める。深めた事例に対して、参加者から報告者に助言を行い、振り返り・気づきを促す。報告者は自身気づきを発表する。 ※事例提出者はホワイトボードの内容を写真に撮るなど記録する。 グループワークを通して、事前課題を元に実践の振り返りを行う。意思決定支援を通して生きがいや自己肯定感を高めること(ストレングス)ができていないか、アセスメントを深めることができていないか、モニタリングを適切に実施できているか、インフォーマル資源に目をむけることができていないか、などを振り返り、受講者が自身の課題を整理する。	GW	事前課題
12:00~13:00	60	昼休憩						
13:00~14:20	80				実践検証③ 13:00~13:35 (休憩 13:35~13:45) 実践検証④ 13:45~14:20	GW		
14:20~14:35	15							
14:35~15:55	80				実践検証⑤ 14:35~15:10 (休憩 15:10~15:20) 実践検証⑥ 15:20~15:55	5人のグループは実践検証⑥は他グループに別れ、質問する側として参加する。	GW	
15:55~16:05	10	休憩						
16:05~16:35	30	③ 個別相談支援演習の振り返り	演習で学んだことを振り返り、自身の個別相談支援の実践に自己評価を行い、維持・向上すべきことに気づく。		1) チェックシートの記入を行いセルフチェックを行う。 事例検討でまとめた実習での取り組みを整理 18分 2) セルフチェックの報告と実習での具体的な取り組みをグループ内で表明する。 12分(2分×6名)	実践検証での気づきを改めて整理し、実習で取り組むこと、助言を受ける地域の機関について明確化する。 セルフチェックの報告とインターバル間の具体的な取り組みを表明	教室(個人) GW	セルフチェックシート 実習課題報告書
16:35~16:45	10	④ 研修2日目の総括と、3日目に向けて			1) 演習(2日目)の総括及び実習での取り組みについて説明する。 2) 演習(3日目)の説明、それまでに準備することの確認	教室FTより講義・説明	教室	
16:45~17:00	15	事務連絡						

東京都相談支援従事者現任研修3日目 チームアプローチ(多職種連携)演習

企画ポイント: チームアプローチ(多職種連携)を受講者の実践に重ねて検証する演習を予定。具体的には[連携の構成要素]である、連携において目指す成果、連携の構造(人と役割、場等)について検証する。特に後者については、自身が果たすこと、他連携メンバーが果たすことや他連携メンバーに期待したいこと等深く掘り下げる。抽出された連携における課題への解決案を、演習終盤のグループワークで探る。

研修3日目の 獲得目標	・チームアプローチ(多職種連携)の理論と連携を検証する方法等を理解する。 ・実践における連携を省察し、明日からの実践に活かせるようになる。							
時間	大項目	獲得目標	中項目	手順・時間配分	内容	形式	使用ツール	
9:30~9:45	15	① オリエンテーション~研修3日目スタートに向けて~	研修3日目の流れを理解する。 研修2日目との連続性を確認する。	1 研修2日目と実習の振り返り 2 研修3日目の獲得目標と流れの確認			教室	
9:45~10:45	60	② 実習で取り組んだことの報告	自身のチームアプローチの実践の振り返り、様々な視点に気づき、今後のチームアプローチの向上を図る。		報告:1人10分×6人 実習報告書を元にインターバルにおける取組をグループ内で報告する。 ・誰にどのような助言をもらったか。 ・支援にどのように反映したか(する予定か)。 ・自身に対する気づき(考え方の傾向、課題、強み等) ※進行、記録の役割なし	GW	事前課題 実習課題報告書	
10:45~11:00	15	休憩						
11:00~12:30	90	③ チームアプローチ(多職種連携)の実践の振り返り	チームアプローチ(多職種連携)の理論と連携を検証する方法等を理解する。	2 チームアプローチ(多職種連携)実践を振り返る。	教室担当が1コマ1コマ説明しながら進める。	チーム実践を振り返るフレームに従い、個人ワークでチーム実践を省察する。	教室 (個人)	「連携」振り返りシート(A3)
12:30~13:30	60	昼休憩						
13:30~16:10	160	④ チームアプローチ(多職種連携)の質の向上を考える。	実践における連携を省察し、明日からの実践に活かせるようになる。		説明 13:30~13:40 検討① 13:40~14:00 検討② 14:00~14:20 (休憩 14:20~14:35) 検討③ 14:35~14:55 検討④ 14:55~15:15 (休憩 15:15~15:30) 検討⑤ 15:30~15:50 検討⑥ 15:50~16:10 【進め方 1人20分】 1)一人ひとり連携振り返りについて発表 2)連携における課題に対し、アイデアカードづくりをする。 3)アイデアカード貼りだし 4)発表者がアイデアから取り組もうと思うことを選択	チーム実践を振り返るフレームに基づき浮かび上がったチーム実践の課題に対し、チームの質を向上するための方策をグループで考える。	GW	「連携」の質の向上を考えるシート(A3)付箋
16:10~16:25	15	⑤ チームアプローチ(多職種連携)演習の振り返り	演習で学んだことを振り返り、自身のチームアプローチの実践に自己評価を行い、維持・向上すべきことに気づく。		1)チェックシートの記入を行いセルフチェックを行う。 5分 2)セルフチェックの報告と、演習で気づいたことを発表する。 10分	チェックシートの記入	教室 (個人)	セルフチェックシート
16:25~16:35	10	⑥ 研修3日目の総括と、4日目に向けて			1)研修3日目の総括 2)研修4日目の説明	教室FTより講義・説明	教室	
16:35~16:50	15	事務連絡						

東京都相談支援従事者現任研修4日目 コミュニティワーク演習

企画ポイント: 共通事例をもとに、「連携」だけでは得られなかった相談支援プロセスが個別支援と地域づくりへと連続することを理解する。さらに、自身の事例を通じて「個別支援事例」と「地域づくり」との連続性を検証する。また、演習全体を振り返り、相談支援のプロセスにおける個別支援、チームアプローチ、コミュニティワークを再確認する。

研修4日目の 獲得目標	相談支援における個別支援と地域づくりとの連続性を理解する。							
時間	大項目	獲得目標	中項目	手順・時間配分	内容	形式	使用ツール	
9:30～9:45	15	① オリエンテーション～研修4日目スタートに向けて～	1 研修2日目と3日目の振り返り 2 研修4日目の獲得目標と流れの確認		地域づくりを含む相談支援のプロセスを再確認し、多様なニーズに応えるために地域づくりや人材づくりが必要であることを確認する。	教室		
9:45～11:25	100	② 個別支援と地域づくりとの連続性の理解	相談支援のプロセスにおいて、どのように地域課題を抽出し、どのようにその解決に向かうかについて理解を深める。	1 相談支援における課題の整理と「地域課題」の抽出 2 「地域課題」をどのように解決に導くかー「地域づくり計画」の検討 I	1) 「共通事例における課題」の可視化(事前課題) ①事前課題「課題集約書式」に書きだした「共通事例における課題」を、付箋紙1枚に1課題ずつ書き出し、課題カードをつくる(個人ワーク) ②課題カードをレベル分析シートへ、なぜそのレベルなのかを説明しながら貼り出す。同じレベル内にある同じ・近い課題はファシリがまとめる。 2) 「共通事例における課題」のレベル分析と「地域課題」の抽出 3) グループを「地域課題に対し検討するネットワーク」とし、ネットワーク(グループ)で取り扱う「地域課題」をメソレベルの課題から選択する。※1つ 1) 40分、2) 10分 1) 社会資源の考え方について説明 2) ①「②-1」で選択した地域課題を模造紙中央に書く。 ②ペアになり課題に対し活用できそうな社会資源を話し合い、付せん書きだす。 ③地域課題を解決するために活用できそうな社会資源を説明しながら貼り出し、共有する。 ※フォーマルとインフォーマルで付箋の色を変える。 1) 10分、2) ①②15分、③25分	1) 「共通事例における課題」の可視化(事前課題) ①事前課題「課題集約書式」に書きだした「共通事例における課題」を、付箋紙1枚に1課題ずつ書き出し、課題カードをつくる(個人ワーク) ②課題カードをレベル分析シートへ、なぜそのレベルなのかを説明しながら貼り出す。同じレベル内にある同じ・近い課題はファシリがまとめる。 2) 「共通事例における課題」のレベル分析と「地域課題」の抽出 3) グループを「地域課題に対し検討するネットワーク」とし、ネットワーク(グループ)で取り扱う「地域課題」をメソレベルの課題から選択する。※1つ 1) 40分、2) 10分 ②-1で選択した「地域課題」に対し、その課題を解決するために、どのような社会資源(人、物、仕組みなどフォーマル、インフォーマル両面から、ストレングスに焦点を当てて)が活用することができそうかを考える。 ※既存の社会資源をより機能化させたり、つなぎ直したりという視点を強調	教室 GW GW	共通事例資料 「課題集約書式」/事前課題 付箋 レベル分析シート
11:25～12:25	60	昼休憩						
12:25～14:25	120		3 「地域課題」をどのように解決に導くかー「地域づくり計画」の検討 II 4 「地域づくり計画」のプレゼンテーション	1) 「地域づくり計画」の説明 2) ①「地域づくり計画」を壁等に貼り、理念・目標を書く ②区市町村の課題を書く ③「地域課題」それぞれに対して活用する「社会資源」をGFが参加者に聞きながら「活用する社会資源」と「どのように活用するか」欄に書く ④「活用する社会資源」と「どのように活用するか」欄に書きこまれた情報に優先順位をつけ、計画として取り扱う「社会資源」を2～3に絞り込む ⑤「いつまでに達成するか」について意見交換し、計画に書き込む ⑥「そのとき果たすわたしの役割」について相談支援専門員としての立場で考え意見交換し、書き込む。 1) 10分、2) 80分 2) グループを1チームとして互いに発表(1グループの発表10分 質疑応答5分) × 2グループ 30分	アクションプランとしての「地域づくり計画」を作成する。 →「②-1」で選択した「地域課題」に対し、「②-2」で考えた社会資源を、どのように活用し、いつまでにその課題を解決するかなどを検討 ⇒発表を踏まえて グループで作成した「地域づくり計画」を計画のポイント、達成時期のメリットを互いに発表する。	教室 GW GW	地域づくり計画書式	
14:25～14:40	15	休憩						
14:40～16:20	100	③ 個別支援と地域づくりとの連続性の理解～個別支援事例を通じて～	個別支援としての相談支援のプロセスが地域づくりへと連続することを、自身の事例を通じて再確認する。また、明日からの自身の実践を表明する。	1 「個別支援事例」と「地域づくり」の連続性の検証 2 「個別支援事例」の振り返り書式への記入 3 事前課題の「個別支援事例」で考えた計画を、地域の協議会にも触れながら、1人がプレゼンをし他の人と質疑応答をする。これを繰り返し、それぞれが作った計画をバージョンアップする。 1) 5分、2) 15分(個人ワーク) 3) 45分 (グループ内で2グループ分けて発表 グループワーク 15分 × 3人 10分発表質疑応答5分)	各自持ち寄った「個別支援事例」の共有と事例を通じて見える「個別支援事例における課題」を抽出する。 各自身持ち寄った「個別支援事例」の共有と事例を通じて見える「個別支援事例における課題」を抽出する。 1) 5分、2) 15分(個人ワーク) 3) 45分 (グループ内で2グループ分けて発表 グループワーク 15分 × 3人 10分発表質疑応答5分)	教室 GW	「事例共有書式」/事前課題 個別支援事例における課題(A3) 個別支援事例振り返り書式	

時間	大項目	獲得目標	中項目	手順・時間配分	内容	形式	使用ツール
			2 明日からの実践へ向けた実行表明	1) 手順の説明 2) 「個別支援事例振り返り書式」に基づき、グループ内で一人一人感想を述べ合い、明日から実践しようとすることを表明する。 1) 5分、2) 30分(6人×5分)	「個別支援事例振り返り書式」に記入した「明日から取り組もうとすること」をグループで表明する。インターバル期間において、協議会等から得た情報についても発表する。	GW	個別支援事例振り返り書式
16:20～16:40	20	④ まとめ	演習全体を振り返り、相談支援のプロセスにおける個別支援における本人の意思の尊重、チームアプローチ、コミュニティワークの視点を再確認する。	1) 研修4日目の総括 2) 研修全体の統括	「本人の意思の尊重」「チームアプローチ」「コミュニティワーク」の視点を明日からの実践に向けて、再確認	教室	セルフチェックシート
16:40～16:55	15	事務連絡					

演習/トイメージ

9:30~9:45

<メモ>

1 オリエンテーション～研修3日目スタートに向けて～

1 研修2日目と実習の振り返り・・・9:30～9:35(5分)



MF
解説をする。

2 研修3日目の獲得目標と流れの確認・・・9:35～9:45(10分)

研修3日目の獲得目標

- ・チームアプローチ（多職種連携）の理論と連携を検証する方法等を理解する。
- ・実践における連携を省察し、明日からの実践に活かせるようになる。

ロードマップの3日目部分を貼付

9:45~10:45

〈メモ〉

2 実習で取り組んだことの報告

<獲得目標>

自身のチームアプローチの実践の振り返り、様々な視点に気づき、今後のチームアプローチの向上を図る。

使うもの 実習報告書

手順

実習報告書を元に、実習での取組を 1人10分で報告します。

【報告内容】

- (1) 誰にどのような助言をもらったか。
- (2) 支援にどのように反映したか（反映する予定となったか）。
- (3) 自身の実践に対して気づいたことは何か。
(考え方の傾向、課題、強み等)

※進行・記録は特に用意しません。

グループ内で順番を決め、時間管理を意識しながら進めてください。



MF
手順を説明する。

GF
報告が円滑に進むよう、サポートする。

休憩
10:45~11:00

11:00~12:30

<メモ>

3 チームアプローチ（多職種連携）の実践の振り返り

<獲得目標>

チームアプローチ（多職種連携）の理論と連携を検証する方法等を理解する。

1 チームアプローチ（多職種連携）とは・11:00~11:10(10分)

教室

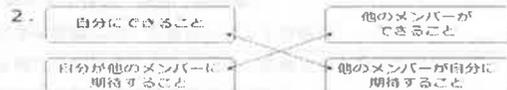
MF
手順を説明する。

チームアプローチとは、なぜ必要か等の解説

「連携」がうまくいくとき

—相互的・自律的な連携ができているとき

1. 目指そうとする具体的な成果が共有されている



この「たすきがけ」にズレがない

3. 相互理解をつくる場がある

「連携」の構成要素

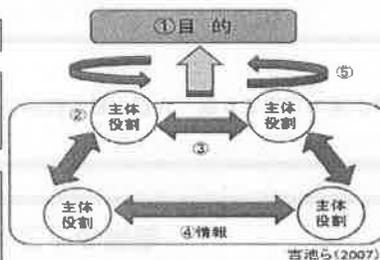
①目的の一致

②複数の主体と役割

③役割と責任の相互確認

④情報の共有の場

⑤連続的な協力関係過程の機会



参考【平成30年度主任相談支援専門員養成研修資料】

2 チームアプローチ（多職種連携）実践を振り返る

・11:10～12:30(80分)

「相談支援における多職種連携を【連携の構成要素】に基づき振り返り、連携における課題を抽出します。

使うもの

「連携」振り返りシート

＜本人の希望＞				
	私			
役割				
期待				
場	＜ケース支援を通して＞		＜ケース支援以外＞	



MF
手順を説明する。

GF
ワークを見守り、サポートする。

手順

- 1) 連携において目指す成果を考えます。
事前課題、演習1日目を通じて気づいたこと等も踏まえ、改めて表（赤枠内）に「本人の希望」を記入してください。
- 2) 連携において自身が果たす役割と責任を考えます。
ケース支援において、自身が果たすべき役割・責任を考え、記入してください。
- 3) 連携メンバーを振り返ります。
ケース支援において、重要な役割を果たす関係者3者を取り上げ、名前・所属を記入してください。
- 4) 連携においてチームメンバーが果たす役割と責任を考えます。
連携する3者が、支援において果たすべき役割と責任を考え、記入してください。
- 5) 連携においてチームメンバーに期待することを考えます。
連携する3者に対し、自身が期待したいことを考え、記入してください。
- 6) 連携において自身に向けられる期待を考えます。
連携する3者等他のチームメンバーから、自身が期待されていることを考え、記入してください。
- 7) 応えることが難しい期待を考えます。
自身と連携する3者の期待に、応えることが難しい期待があれば、下線を引いてください。
- 8) 連携をつくるための場・機会を考えます。
そのために、どのような場・機会があるか、どの程度（回数や時間等）あるか、考え、左欄に記入してください。
- 9) 自身の連携を評価してみます。
その「連携」はどの程度進められそうでしょうか？その「連携」は今の程度進んでいるでしょうか？下の図にチェックを入れてください。

